

よこすか海岸通り「ストリートキャンバス」
～市内障害者団体のご協力によるウォールアート制作～

市長

それでは「よこすか海岸通りストリートキャンバス」事業について、今回、市内障害者団体のご協力によりウォールアート制作を行いますので、お知らせさせていただきます。

まず、「ストリートキャンバス」についてですが、これは市内小川町から走水の間、よこすか海岸通りのうち、平成町内に点在する古くなったモニュメントを、アートとして蘇らせる事業であります。地図（別添資料）がありますが、私はかねてから、暗い雰囲気だったこの通りを、ワクワクと楽しい気持ちになるような通りに蘇らせたい、そして横須賀を象徴する通りにしたいと思っておりました。

できれば、ワイキキのカラカウア通りのようにしたいと、個人的に思っていました。ただ、まだ遠く及ばず、始まったばかりだとご理解いただければと思います。

これまで、3カ所のモニュメントをウォールアートとして蘇らせ、徐々にではありますが、通りを歩く皆さんや、車を走らせる皆さんから「明るい雰囲気の道になった」、「楽しい気分になる」という声が聞かれるようになりました。

実際に若い方々が現地で写真を撮り、その写真をInstagramにあげたり、ご家族で写真を撮る様子を見かけたりするなど、これまでになかったような動きが出てくるようになり、大変うれしく感じています。

これまでの取り組みについて簡単に紹介させていただきますと、これらの画像のとおり、第1弾は「YOKOSUKA GENIC STREET」で、全長50メートルの壁に、横須賀総合高校の生徒をはじめ、4人のアーティストが制作をいたしました。

第2弾は、平成町2丁目の4枚の壁で、これは関東学院大学美術部の学生が制作したものです。

第3弾は、ノジマモールの向かいの丸い穴の開いた壁で、こちらは公募で選出した作品です。

そして、このたび、第4弾として、市内の作業所の皆さんにご協力をいただき、エイビイの平成町店の向かい側の4枚の壁にウォールアートの設置を進めているところです。

今回、ご協力いただいた経緯についてですが、私はこれまでも、この道を様々な感性のアートで飾りたいと思っていました。

そこで横須賀三浦作業所連絡会会長の海原さんにお声がけをさせていただいたところ、快くお引き受けくださり、市内の8事業所から、83作品ものご応募を受けるに至りました。

数多くの作品をご応募いただき、また、大変個性のある作品ばかりで、選ぶのに大変苦慮いたしました。

共通のテーマである「心はずむ YOKOSUKA」、「環境・生命を守る」、「他のウォールアートとの親和性」などの視点から8作品を選ばせていただきました。

この作品のリストは別紙のとおりで公開は5月の予定です。

最後になりますが、ストリートキャンバス事業は、よこすか海岸通り周辺のいくつかの企業の皆さんなどから、事業の趣旨にご賛同いただき、事業への協力やご寄附をいただいています。

私からは以上となりますが、本日は、横須賀三浦作業所連絡会会長の海原さんと制作者の皆さんにお越しいただきましたので、海原さんからまた作品に込めた思いについて、代表して下町作業所の早川さんにお話をいただきたいと思います。

横須賀三浦作業所連絡会代表の海原と申します。どうぞよろしくお願いたします。

このストリートキャンパスのお話をいただき、横須賀三浦作業所連絡会の中で、絵画の募集をさせていただきました。8事業所から83作品集まったことを伺い、呼びかけさせていただいた立場としてとてもうれしく思っております。

前段で上地市長からお話がありましたように、よこすか海岸通りに様々な感性のアートで彩りたいという思いのもと、障害者の方のアートを飾りたいとお話をいただいたときはとてもうれしく思いました。

市民の方が障害者アートを目にすることは少ないかと思しますので、ぜひ、この機会に多くの方に障害者アートのことを知っていただき、関心を持っていただければと思っております。

障害のある方のアートは、とても独創的で、見る者を元気にさせてくれる力があり、今回、選ばれた作品も本当に私自身もとても力をもらえる作品だなと思っております。

今回は共通テーマである「心はずむ YOKOSUKA」、「環境・生命を守る」、「他のウォールアートとの親和性」という視点で自然や環境のことを描いた絵画が選ばれていますが、他にも素敵な感性の絵がたくさん出品されており、上地市長からも選ぶのに苦慮されたと伺っております。

今回の作品の展覧をきっかけに、作品の展示会を開催してみたいというお話もいただいております、これから実現に向けて、一步、踏み出して行きたいと思っております。

最後に今回の機会をつくっていただきました上地市長と企画調整課の皆さまに心からの感謝を申し上げたいと思っております。ありがとうございました。

作品の思いは代表して下町作業所の早川さんからお話をさせていただきたいと思っております。

下町作業所 早川様

選ばれてとてもうれしいです。

パイナップルは、デパートで売っていて美味しそうだったので描きました。

<質疑応答>

記者

絵を描いていた時の様子を教えてください。

また、何歳ぐらいの方々が応募されたのかを教えてください。

あまね作業所職員

ブーゲンビリアやヒマワリなどは、実物を見ながら、ゆっくり時間をかけ描いていました。

ただ、色を選ぶことが難しいところがあり、職員がいくつか見せてその中から選んでいただくようなお手伝いはしました。

ぶどうの木職員

「ハートフルカラフル」という作品についてお話させていただきます。

この作品はとても大きく、1つのテーブルに紙を置きますと、四方八方から、メンバーの方たちが筆をダメにしてしまうほど、力強く、描いてくださいました。四方八方から描かれているので、どの向きが正しいのかはわからないのですが、どこから見ても明るい作品だと思っております。

横須賀三浦作業所連絡会 海原会長

年齢についてですが、今回、選ばれた方たちは、40~50代の方が多かったと思っております。

ただ、他の選ばれなかった作品をどのくらいの年齢層の方たちが描かれていたか把握しておりません。

記者

今回、障害者団体にお声がけをした理由を教えてください。

経営企画部長

これまで大学生や高校生など、いろいろな世代、また、様々な方にお願ひしてきました。

先程、市長からもご説明がありましたように様々な感性を持った方々の作品を展示したいという思いがあり、今回、お声がけをさせていただきました。

記者

このウォールアートが完成した時の思いをお聞かせください。

市長

以前から申し上げているように、エンターテイメントがあるまちにしたいという思いがあります。

その中に、あらゆる人たちが手を繋ぎ合い、ワクワクするような「アート通り」を作りたいという思いがありました。

コロナや予算の問題で2期目になってしまいましたが、横須賀の1万メートルプロムナードから、新しいものを発信していきたいと大きな期待を持っています。また、今回のように様々な方々にご協力していただき、大変ありがたく思っております。

<フォトセッション>

<案件外の質疑応答>

記者

現在、第7波といわれています。新学期が始まり、これから感染者数も増えていくと思っておりますが、市長のご所感を教えてください。

市長

毎日いろいろな話し合いをしていますが、どこまでやったらいいのかということを考えながら、イベントやまちを活性化させていかなければいけないということで、今すごく心配をしているところです。

ただ、何度も申し上げているとおり、東京と連動しているということを勘案しながら、様々な手だてを打ちたいと考えています。

記者

先日、プールの営業をすると報道発表がありましたが、海水浴場も開設する方向なのか教えてください。

市長

海水浴については、現在のところ、検討中です。

(終了)